

日 食 情 報

1981 NO. 2

-
- ☆ チャレンジしよう日食計算(2) 山 本 威一郎
☆ 船上的日食観測('73年アフリカ日食の体験) 箕 輪 敏 行
☆ 北海道における7月31日部分日食の観測予定 福 島 久 雄

☆ 1980年アフリカ・インド日食における専門家の観測について... 秦 茂

日食情報センター

5月17日に行われた日ソ旅行社の日食説明会

工学院大学南館第5会議室で開催された。当日は雨にもかかわらず、多数の日食ツアー参加者が会場を埋めた。当初、日ソ旅行社のツアーが成立するかどうか危ぶまれていたが、船上観測の中止の影響があつて、参加者が急増したと思われる。最終的に、参加者は100名程度になるだろう。グループでの参加は東海大学、立川女子高校等である。夏休み中のツアーのため、いままで休暇の都合でどうしてもいけなかった教職員や学生の参加が多いようだ。今回初めて日食をみるという人もかなり多く、説明会に参加した半分以上が日食初体験であった。日ソ旅行社の説明の中からいくつかひろってみる。

- ブラックでの気象データはないが、7月下旬のイルクーツクは霧が朝、夕は多いようだ。
- ブラックの現地時間は夏時間を使っているため日本標準時(JST)と同じである。
- 観測地はブラック南西約47Kmのブラック海(人工湖)湖畔のタルマを予定している。
- 6月5日～12日にかけて現地を下見してくる。6月14日の「'81シベリア北太平洋日食観測計画発表会」(日食情報センター主催)の席上、報告する。

1982年日食の速報

1982年は4回の日食があるが、いずれも部分食であり、12月15日の部分食が最大の食分0.736をあたえるにすぎない。

従って太陽コロナの観測者の目は1983年のインドネシア日食に向けられる。

- 1982年1月25日(すべて中央標準時) 赤経の合1月25日13時21分2.9秒、南太平洋、南極で見られる。最大食の食分は0.566。
- 6月21日 赤経の合6月21日20時51分33.7秒、南太西洋の南部、アフリカの南端、最大食の食分は0.617。
- 7月21日 赤経の合7月21日3時30分4.3秒、ヨーロッパとアジアの北端、北アメリカの北端、グリーンランド、北極地方。最大食の食分は0.465
- 12月15日 赤経の合12月15日18時10分56.9秒、ヨーロッパ、アフリカ東北部、インド洋北端、アジアの西部で見られる。最大食の食分は0.736。

以上のように1982年中には日本で見られる部分食はない。なお食分というのは、かけた部分の最大の幅と太陽の直径との比のことである。

編 集 後 記

◎ 7月31日のシベリア・北太平洋日食まであとわずかとせまりました。当初、陸・海・空の三軍で日食を向え撃つ計画でしたが船が沈み、飛行機が墜落した現在、ブラックの観測のみが残ったようです。北太平洋上での船上観測が中止してしまったので、今後は、今回の日食は「'81年シベリア日食」と呼ぶことになると思われます。ソ連というとなにかと不自由なことが多いと思いますが、困難を克服し、日食観測が成功することをお祈りします。スタッフの中では、山口・大越が参加の予定です。

◎「チャレンジしよう日食計算」では、山本威一郎さんにPC-1211を使った日食局地予報のプログラムを発表していただきました。プログラムは開発に時間のかかるいわば特許のようなものです。このプログラムを使用して、公の場で発表する際は、山本さんの承認を受けることをお願い致します。局地予報のご質問についてもどうぞ。

スタッフ	山 口 正 博	宗 谷 洋 一
	塩 田 和 生	足 立 潔 史
	土 屋 義 雄	中 村 幸 夫
	榊 原 幸 雄	大 越 治

日食情報 1981 ㉞2
1981年6月14日発行(200部)
発 行 : 日食情報センター(代表者 山口正博)